

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦(Dare Greatly) 1 学ぶ意欲を育てる＝「主体性を育てる」「やる気を引き出す」→授業改革 2 成長を支える＝「人と出会い、新たなことへの挑戦を促す」→場の設定・声かけ 3 変化を求める＝「現状に満足しない」「変化を恐れない」→現状を見つめる	今年度の重点 目標	1 基礎学力の向上 2 基本的生活習慣の確立 3 キャリア教育の充実 4 地域社会への貢献 5 的確な情報発信 6 業務改善の取組
-------------------	--	--------------	--

年 度 当 初					中 間 評 価	
評価項目	評価の具体項目	現 状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価 年度末に向けての改善策
【基礎学力の向上】 ○社会人として必要な基礎学力・一般教養の習得 ○「やる気を引き出す」授業の工夫・改善	○家庭学習を充実させ、基礎学力の定着 ○一般教養を習得させ、社会人として必要な力の修得	○家庭学習時間は昨年度より増加したが、まだ充分とはいえない。 ○朝勉強テストの結果は、全校で満点者率が16%、不合格者率18%であった。 ○成績不振者に対して、長期休業中や考査前の放課後に講習を行った。 ○主体的な学びを行わせる授業、ICTを活用した授業の実施率は高く、新しい形の学びは定着してきている。 ○タブレットの活用講習会も実施したので、その利用方法も定着しつつある。	○全生徒の1日の平均家庭学習時間が1時間以上である。 ○ICTやアクティブラーニングの手法を駆使し、生徒の興味・関心を育み、考える力を培う授業ができるようになる。 ○アンケートで生徒の授業理解における肯定的評価が80%以上である。 ○アンケートで朝読書・朝勉強テスト等で知識が身についているとする生徒が80%以上である。	○家庭学習、朝勉強テスト、検定などを通じて、基礎学力の定着を図る。 ○受け身型の授業だけでなく、主体的に考えさせたり、グループ内で対話的に学習したりする授業を積極的に実施する。 ○ICTの活用により、生徒の興味関心を引き出す授業を積極的に実施する。 ○読書活動が円滑に進むように昇降口貸出等の支援を高め、さらに読書の質を高めるため「らいぶらりん」や「図書館通信」で情報提供を続ける。	○学習時間調査では1日の家庭学習時間は1年生44分、2年生25分、3年生24分であり、2、3年生は前年度より減少している。 ○朝勉強テストの取組の一環として、進路室前掲示板に一般常識の問題を張り出し、日ごろから興味をもって問題に取り組めるように工夫した。 ○授業実施状況は、ICTを活用した授業68.6%、主体的な学びを行わせる授業89.7%、家庭学習をさせる取組を行っている授業62.4%となっている。実技中心の科目などは宿題を課しにくい特性があることを勘案すると、高い実施率といえる。ICT利用率が前年度より下がっている。 ○一部でGoogle フォームを活用した家庭学習の取組を行い、成果を上げている。 ○読書活動が円滑に進むように、授業やHR、進路指導の場面や部活動など、生徒のさまざまな利用目的のために、校内掲示や個別の提案などを行った。	C ○基礎力診断テストや朝勉強テスト等の機会を捉え、課題の出し方を工夫して家庭学習時間の確保を図る。 ○昨年度の機種更新によりiPadがWindowsタブレットになって使い勝手が悪くなったが、利用方法の研修を行って全体のスキルアップを図りたい。 ○読書活動について、教員や生徒の本のリクエスト等の要望に県立図書館と連携しながら応えていく。
【基本的生活習慣の確立】 ○知・徳・体のバランスが取れ、社会人として必要な規範意識を身につけた人物の育成 ○あいさつの励行、ルールとマナーを遵守することの啓発	○知・徳・体のバランスが良い生徒の育成 ○社会生活におけるルール・マナー・モラル等を遵守する習慣や規範意識の修得	○生徒会、部活動、委員会の生徒と挨拶運動をすることにより、進んで挨拶をする生徒が多くなった。 ○多くの生徒が服装頭髪検査で問題ないが、若干名、再検査や再指導の対象になる生徒があった。 ○交通安全教室等を実施した他、交通ルールの啓発指導を毎月実施したが、自転車事故の件数は昨年より増加した。 ○情報モラル講演会、非行防止教室、薬物乱用防止講演会等を実施して生徒の規範意識の醸成を図り、意識が定着してきた。 ○不安を抱えている生徒について迅速に対応し、担任、学年団、SC、SSW及び関係機関と連絡・情報交換を密に行い、支援することができた。	○ルール・マナー・モラル等を遵守する規範意識が高まる。 ○「身近な差別」に気づき、その解消に向けて行動できる。 ○情報モラルの意識が高まり、SNSに関わるトラブルが起きない。 ○アンケートで生徒・保護者の「基本的生活習慣の確立」項目の肯定的評価が90%以上である。	○挨拶を定着させるために、全校であいさつ運動を実施する。 ○規範意識を高めるために、各種講演会を実施する。 ○日常的に、また人権教育LHRを通じて、人権問題について考え、行動できる力を養う。 ○分離礼を徹底し、学校全体の取り組みとして指導し、生徒の意識を高める。	○マナーアップ運動期間中に部活動と連携して挨拶の定着に努めた。その結果、多くの生徒が部活外でも、あいさつができるようになってきた。 ○情報モラル講演会を実施し、SNSに関する意識向上を図ることができた。 ○昨年度から引き続き、「参加型」授業で主体的に学習する人権教育を推進している。9月に行われた人権教育講演会では、差別の現状を目の当たりにし、人権意識の高まりが見られた。 ○授業の前後で分離礼の取組を行っている教科もあり、一定部分で習慣化しているが、まだ全体に行き渡っているとはいえない。 ○現時点で保健室利用者数が昨年度よりも増加傾向にある。 ○人権公開LHRでは、学習成果を多くの来賓・保護者に参観していただく予定である。	C ○携帯電話の使用マナーやSNS利用についての規範意識を身につけた生徒育成に力をいれて取り組む。SHRでの啓発を実施する。 ○分離礼については、授業での取組は継続し、より浸透するよう、指導する。教科だけではなく、学年・クラスの取組にしていく必要がある。 ○人権教育については、生徒・教職員の振り返りアンケートを集約し、次年度の学習計画を立案する。

【キャリア教育の充実】 ○適切な職業観・勤労観を持ち、意欲的に課題発見・課題解決に取り組む人物の育成 ○インターンシップの早期計画と進路 LHR の活用 ○地元産業との連携を図り、専門性を深化させ、地域から信頼される人物の育成 ○資格取得の合格率向上のための指導法の工夫	○系統立てた指導により、職業観・勤労観の育成を図り、課題研究等を充実させ、主体的積極的な取組の推進 ○インターンシップ等、体験学習の充実 ○進路実現に向け、地元産業・大学等を理解し、進路意識の向上 ○資格取得を推進し、より高度な専門資格の取得	○進路 LHR で職業調べ（１年）、スタディサプリ（２年）等を計画的に実施して、職業研究に取り組む態度が身についてきた。 ○進路希望別に四大・短大希望、専門学校希望、就職希望の３コースに分かれた学校企業見学や進路講演会を実施し、進路意識を高めることができた。 ○インターンシップでは昨年度 6 2 事業所を今年度は 6 7 事業所で実施し、事前指導、事後指導（発表会）を計画通り行い、職業観・勤労観を高めることができた。 ○学校紹介による就職は内定率 1 0 0 % を達成した。 ○基本情報処理技術者試験 1 名、IT パスポート試験 1 名、日商簿記検定 2 級 1 名、販売士検定 3 級 7 名が合格した。 ○検定の多種目合格者は、商業学科 6 種目 1 名、4 種目 1 名、3 種目 7 名、家庭学科 3 冠王 8 名であった。	○調べ学習を通じて、自ら進んで職業研究に取り組む態度が身につく。 ○進路実現に向け、インターンシップを行う意義を理解し、その目標を達成する。 ○就職希望者が全員内定を得ている。 ○各種検定の合格率が目標値に達している。また、進路を意識し積極的に上位級を目指している。	○高校で新たに取り組む専門科目に力を入れ、資格取得の意欲を持つ。 ○インターンシップに主体的・積極的に組みこませる事により職業観や勤労観を養う。 ○進路を意識した検定の上位級取得と多種目受験を推奨し、目的意識を引き出す。 ○進路指導部と担任団が情報を密にして、生徒の進路希望に沿った指導を行う。 ○教員に必要とされる力量をより高め、高度な職業資格の取得に向けての指導体制を高める。	○計画通りに適性検査、進路講演会、職業理解ガイダンス、進路 LHR を実施し、進路意識を高めることができた。 ○インターンシップは大きなトラブルもなく実施できた。企業から高評価をいただいた。 ○学校全体で面接指導や小論文指導などを取り組んでおり、生徒の進路意識と意欲の向上につながっている。ただ、低学年では生徒の意識やモチベーションに個人差ができてきている。 ○学校紹介による就職内定率は、1 0 月末現在で 9 6 . 2 % である。	
【地域社会への貢献・地域のリーダーとなる人財の育成】 ○地域を知り、ふるさとを愛し、広く地域社会の発展に寄与する人物の育成 ○社会貢献の推進、校外の教育力の活用	○地域活力の導入や地域活性化の推進 ○学校や地域で主体的に行動でき、地域社会の発展を進める人財の育成	○課題研究により 7 月の七夕まつり、1 2 月のマチナカクリスタル、地元の事業所のポスター制作等、地域と連携した取組を実施し、本校の魅力を発信できた。 ○地元の特産品の商品化やイベント協力、小学校給食提案、高齢者施設でのボランティア、中海アダプトプログラム等を通じ地域貢献活動を行った。 ○地域の保育園や小学校との交流授業やみつばち学習発表会などの各種発表会に向けた取組により、コミュニケーション力やプレゼンテーション力が伸長した。	○生徒会や各委員会活動、地域への活動等を通じ、責任感や協調性、積極性を育む環境を整える。 ○何事にも主体的に取り組む、リーダーとして集団をまとめられる。 ○この地域の良さを再認識でき将来的に主体的に企画・実行するリーダーを目指す。 ○課題研究や各種活動を通して地域をより深く理解すると同時に、コミュニケーション力・プレゼンテーション力が向上する。	○生徒会や各委員会活動、地域への活動等を通じ、責任感や協調性、積極性を育む環境を整える。 ○日々のクラスの生活や各種行事（学校祭・遠足・球技大会）での活動の中で協調性や社会性を身につける。 ○地域の協力団体、企業などと連携し、活動の拡大を図る。教職員の活動に対する意識を高め、生徒が積極的に取り組む意識も高めさせる。 ○全学年の授業の中で発表の機会を設け、発信力を育成していく。	○商業科では、例年の活動に加え今年度からの新しい活動として、課題研究（地域振興学）が米子市公会堂と連携して「高校生の主張」を実施した。 ○家庭科では「いのししの炊き込みご飯の素」と「いのミートのパスタソース」の商品化を果たした。試食会や販売活動等ではマスコミにも大きく取り上げられ、地域活性化に貢献できたことは大きな達成感につながった。 ○家庭クラブ主催の中海アダプトに 2 回合わせて 9 9 名の生徒、職員、保護者が参加した。 ○学校祭を通じ、生徒会や各クラス、部において各自がコミュニケーションをとりながら協力し準備に取り組む良い機会となった。ただ課題点として準備期間を有効に活用し準備を進める計画性、実行力が不足している。	○校内での学びと校外との学びのつながりを意識させながら、商業・ビジネスのより深い理解につながるよう取組を行う。 ○課題研究発表会、ファッションショー、卒業作品展など学習成果発表に向け家庭学科全体で準備を進める。 ○今後も各生徒会行事や校外の活動を通じ、自主的に考え行動できる能力や計画する能力が育成できるよう活動の場を設け、リーダーとなる生徒の育成を図る。
【的確な情報発信】 ○学校の様子や教育内容等の伝達の工夫 ○学校に対しての正確な認識の形成	○メディアを利用しての教育内容のわかりやすい伝達 ○特色ある専門高校としての人財育成の姿の発信	○ホームページ等を通して学校からの情報発信を行っていたが、中学生やその保護者にその魅力が十分に伝わっていない可能性もある。 ○定員割れしたことを謙虚に受け止め、生徒募集の工夫をするとともに生徒の成長した姿を様々な媒体を利用して発信していく必要がある。	○メディアを積極的に活用し、生徒の活動・活躍をアピールする。 ○行事・イベントだけでなく普段の状況もわかりやすく伝え、学校に対して正確な認識が形成されている。	○在校生・保護者・中学生のそれぞれに細やかな情報発信を様々な方法で伝える。 また、体験入学や学校訪問の内容を見直し、中学校への出前授業などの取り組みについても検討する。 ○課題研究発表会など学習成果を発表する機会を設け、メディアや学校 web ページ等を活用し、情報発信を行う。	○ホームページ、Facebook、マチコミメールなどの手段で例年より多くの情報発信を行っている。 ○出前授業の具体的な計画を行い、中学校訪問時に提案・説明を行った。一部の中学校では好意的に受け止めてもらったが、依頼はまだない。	○情報発信を続けていることへの外部からの反応は、まだ少ないが、今後も継続していく。 ○高校側が送りたい情報だけではなく、より受け手を意識した情報発信を行う。 ○中学校訪問を踏まえ、中学校からのニーズをより意識した取組を検討・提示できるようにする。

【業務改善の取組】 ○働き方改革の推進 ○時間外業務の削減	○ワークライフバランス確立の推進 ○長時間勤務者の解消	○月あたりの時間外業務が平成29年度比10%削減は達成できている。 ○「部活動に係る活動方針」を設定した。	○月あたりの時間外業務が平成29年度比15%削減を達成している。 ○「部活動に係る活動方針」に沿った部活動が行われている	○早期退勤日を設定し、それを念頭において計画的に業務を行う。 ○月毎の部活動計画をもとに、生徒・教員の休養がとれているか注視する。	○時間外業務削減の目標値は職員の平均は、平成29年度比25%で目標値は達成しているが、個人によって偏りがある。 ○「部活動に係る活動方針」に沿った活動が徐々に浸透してきているが、大会が近づくとう活動時間が長くなる傾向がある。	B	○校務分掌の見直しにより、分業できる体制を検討する。 ○年間を見通した部活動計画の中でメリハリのついた活動とする。
--	--------------------------------	--	---	--	---	----------	--

評価基準（5段階） A：十分に達成 B：概ね達成 C：変化のきざし D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し